

令和4年度第一回愛媛県循環器病対策推進協議会の開催結果

1 開催日時 令和4年5月24日(火)18:00~19:45

2 開催場所 (web開催)

3 出席者

【委員】池添委員、泉谷委員、國枝委員、児島委員、檜垣委員、村上委員、山口委員、渡辺委員、河野委員、矢川委員、斉藤委員、馬越委員、橋本委員
(13名) (山本委員、二宮委員欠席)

【事務局】丹課長、青陰技幹、三宅係長、小笠原係長、和田専門員、大澤専門員、今村主任(7名)

4 協議会の内容

(1) 山口会長挨拶

- ・愛媛県循環器病対策推進計画が、皆様の御協力のおかげで完成した。計画の中に今後の取組が細やかに書かれているが、実効性のある取組を行うことが大変重要。
- ・循環器病の普及啓発については、産官学連携のプロジェクトを中心に、少しずつ県民の皆様に伝わりつつあるところである。ただ、啓発だけでは総合的な取り組みとは言えないので、今後の取組については、是非細かくディスカッションをさせていただきたい。委員の皆様それぞれの職責において、専門的に取り組んでいただけるようなことは何かがあるかについて、御意見をいただきたい。

(2) 議事

I 県循環器病対策推進計画に基づく取り組みについて

○事務局説明①

【資料1】

<愛媛県(健康増進課)における取り組み予定(R4年度)>

- ・昨年度の協議会で委員の皆様いただいた御意見の中から、県で優先度が高いと判断したものを中心に今年度の取組を進めたい。
- ・循環器病特別対策事業として県で今年度より予算化し①~③を実施。国への補助金申請が認められれば、2分の1の補助金を受けて実施する予定。

①愛媛県循環器病対策推進協議会の開催(年2回)

- ・計画に基づく取り組みの進捗管理等を実施。
- ・計画を広くPRするために県民向けの「計画概要版チラシ」を作成予定。元々の既存事業で判明していた健康課題でもあり、循環器病につながる「高血圧」に関するメッセージを愛媛県のオリジナルで入れたい。まずは「自分の血圧を知りましょう」、そのために「健診を受けましょう」というメッセージにしたい。

②人材資質向上支援事業

- ・今年度は歯科衛生士を対象とし、専門職向けの疾患啓発研修会の実施を県歯科衛生会に委託。

③循環器病に関する調査事業

- ・今年度は移行期医療整備のための医療機関調査を実施。
(委員より補足)：移行期医療、成人先天性疾患をまず知っていただき、県内の成人先天性心疾患診療に関する現状の把握を目的に実施。対象は、県内の循環器内科、心臓血管外科、小児科を標榜している医療機関の医師。調査結果から、県の移行期医療体制・相談支援体制整備につなげていきたい。
- ・その他、既存事業や産官学連携協定を利用して、専門職への研修会や普及啓発を実施する。
- ・特に今年度は高血圧へのハイリスクアプローチとして「高血圧重症化予防プログラム」の策定を本協議会で実施することとしたい。

○委員からの意見等

[計画概要版チラシについて]

- ・自分が高血圧を認識していない人への啓発からでいいと思う。
- ・血圧をまず知ってから、減塩・服薬ということになるが、自分が高血圧であることを知ること

を目的にメッセージを出すことは賛成。

- ・チラシは細かく書き過ぎないようにして、パッと見てよく伝わるようにしてもらいたい。
- ・県内は健診受診率が低い。メッセージを送る対象を絞るのがよい。県民性として、血压には関心が低いようだ。
- ・高血圧になるとどんな問題が起こるか分かりやすく書いてあるようなチラシもあればよい。
- ・介護支援専門員の訪問の際に、高血圧の自覚がなくて受診に繋がっていないような人へ受診を促すようなチラシもあったらいいと感じた。

[高血圧重症化予防プログラムの策定について]

- ・ハイリスク高血圧で、早く治療を必要とする人をできるだけ落とさないことが大事。
- ・開業医は患者さんを待っている立場なので、ハイリスクの方がどれくらい受診に繋がっていないかはわからない。健診の結果とレセプトを突き合わせて受診したか確認していく必要がある。

[その他]

- ・循環器病を啓発するラジオ番組を通年でやれないか検討していきたい。
- ⇒事務局説明に対し、各委員了承。

○事務局説明②

[資料2～4]

<県計画のロジックモデル及び県の取組状況について>

- ・資料2については、県健康増進課と関係課の取り組みについて、事務局で指標毎に丸印を記載。(●：予算事業、○：ゼロ予算事業)。
- ・資料2を見ていただくと、取り組みが空白となっているカテゴリーや空白が多いカテゴリーがよくわかると思うが、それらの部分については、是非委員の皆様からのお力をお借りして取り組んでいきたい部分である。今後各委員の皆様の方で、取り組みを計画される際には、参考にしていただきたい。
- ・資料3は、資料2に記載した丸印の県の取り組みの詳細をまとめた資料。
- ・資料4は、協議会終了後に、各委員の皆様へ、今年度の取り組み予定を記載していただき、提出していただくための様式。

○委員からの意見等

[各委員からの現状報告・取組み予定等]

- ・脳卒中学会で各都道府県の二次医療圏毎にPSCを置く取り組みを行っており、均てん化を目指しているところ。また、所属の医療機関としてPSCコアの認定を受けることを検討中。医療機関数を増やすとか医師数を増やすというより、中身が重要。シームレス研究会で急性期と回復期の医療機関同士の定期的な交流や症例検討等を実施している。
- ・救急救命士の運用率はこれ以上上げられないレベルに来ている一方で、救急活動の事後検証ができる体制は今後も築き上げていく必要がある。
- ・心臓血管外科についても、専門性の高い手術は集約化している。大事なのは病院間の連携。
- ・松山圏のリハビリ施設は患者の希望で特定の病院に偏る傾向はあるが、全体として足りてない訳ではない。東予・南予においては、リハビリ施設が不足しがちで偏っているので、医療圏を跨いだりリハビリが必要な現状。
- ・心血管疾患では、季節変動が非常に大きい。また、慢性期リハが終了して家庭に戻る際の家庭支援・介護支援が足りていない。
- ・訪問看護に携わる人が増えるような取り組みについても職能団体で情報共有をしたい。
- ・教育現場でのAEDは、特定の地域において学校に1台しかないところがある。学校に複数台AEDを配置できるように取り組んでいきたい。

[その他]

- ・ロジックモデルの指標については、最終的なアウトカムである健康寿命の延伸に繋がらない指標であると分かれば、次の計画の見直しの際に、指標から除きシンプルにするというやり方もあるだろう。

II その他

- ・各委員は今年度取組み予定等について、資料4に記載し、事務局に6/10までに提出。
- ・次回協議会は2月頃の予定。今年度の取組み報告を行う。